

【資料2】 2021年度 授業評価(授業アンケート)結果報告

1. 授業評価実施の経緯

- 2003～2006 北辰図書によるアンケートを導入、4年間継続
- 2007～2008 全教員による手作りアンケート方式実施
- 2009～2013 再び北辰図書によるアンケートに戻して、以後5年間継続
- 2014～2019 代々木ゼミナール教育総合研究所に変更して6年目、次年度も継続の予定
- 2020 6月中旬までオンライン授業を行ったため、実施を断念
- 2021 再び代々木ゼミナール教育総合研究所によりアンケートを実施

2. 授業評価の特徴

- 質問項目の内容・意図が明確であり、生徒が評価しやすく、また教員の立場からも改善につなげやすい。
- 発送から3週間程度という比較的短期間で解析結果が送付される。
- 解析後に講師が派遣されて、全体場で評価の読取り方や今後の改善方法、授業力向上策などが指摘され、事後の授業づくりの参考になる。それ以外にも、定期的にメールにて授業改善・生徒指導への提言を紹介してくれる。

3. 授業評価の質問一覧

- 連続性を重視して、今年度の質問項目は一昨年度と同じ質問項目・内容で実施した。
- なお一昨年度には、ICT機器の利用や協働性を重視するなど、新たな授業内容に適応した質問項目に一部変更している。

〈2021年度の質問項目＝教壇系〉

番号	項目	質問内容
1	板書や資料	板書やプリント ICTなどの教具は、授業の理解に役立っている。
2	指示と説明	先生の説明はよくわかり、指示にとまどうことはない。
3	理解確認	先生は、生徒の理解を確かめながら授業を進めてくれる。
4	対話の効果	授業中の話し合いや周りとの協働を通して、学びが深められる。
5	目標理解	先生は、達成すべき目標やポイントをはっきり示してくれる。
6	活用機会	授業で理解したことを使って自分で考える機会が整えられている。
7	学習効果	この授業を受けて、学力や技能の向上を実感できた。
8	進み方	授業の進み方、(授業で扱う分量)はあなたにとってどうですか。
9	難易度	教材や課題の難易度はあなたにとってどうですか。
10	学習方法	あなた自身、この科目の学び方や取り組み方が身についてきた。

〈2021年度の質問項目＝実技系〉

番号	項目	質問内容
1	ポイント説明	先生の説明を通じて、練習や作業のポイントがよくわかる。
2	行動指示	授業中の約束事や先生の指示は明確で、戸惑わずに行動できる。

3	生徒理解	先生は生徒の状況をよく把握しながら授業を進めてくれる。
4	表現の場	展示や発表・試合など、自分の取組の成果を表現できる機会がある。
5	目標理解	振り返りや先生からの助言を通じ、次に向けた課題が意識できる。
6	振り返り	授業を受けて、知識や技能が身につき、自分の進歩を実感できる
7	学習効果	この授業を受けて、学力や技能の向上を実感できる。
8	進み方	授業の進み方、(授業で扱う分量) はあなたにとってどうですか。
9	難易度	教材や課題の難易度はあなたにとってどうですか。
10	興味関心	授業を通してこの科目への興味関心が高まった。

- 質問1～7の項目に関しては、A「非常によくあてはまる」、B「よく当てはまる」、C「どちらかといえば当てはまる」、D「あまり当てはまらない」、E「当てはまらない」の5段階で評価する。
- 上記の7項目はA=10、B=8…、E=2という得点がつけられ、最終的に100点満点に換算した得点率で示される。高いほうが、高評価となる。
- 質問8は、A「速すぎる」、B「やや速い」、C「ちょうどよい」、D「やや遅い」、E「遅すぎる」の5段階で評価する。
- 質問9は、A「難しすぎる」、B「やや難しい」、C「ちょうどよい」、D「やや易しい」、E「易しすぎる」の5段階で評価する。
- 質問10は、A「強く思う」、B「そう思う」、C「少し思う」、D「あまり思わない」、E「まったく思わない」の4段階で評価、得意方向か苦手方向かを明確に示す。
- 質問8～10は、A=+10、B=+5、C=0、D=-5、E=-10の平均数値で示される。質問8・9は0が理想的ではなく、若干「速い」・「難しい」によった+1～2程度が理想的とされる。
- 生徒は上記アンケート項目以外にも、教員に対する記名式でコメントを記入することができる。コメントは生徒から回収後に、担任教員がアンケートとは切り離して、直接担当教員に手渡している。
- アンケートは、例年同様に6月中旬から7月上旬のWDやLHR時に実施した。

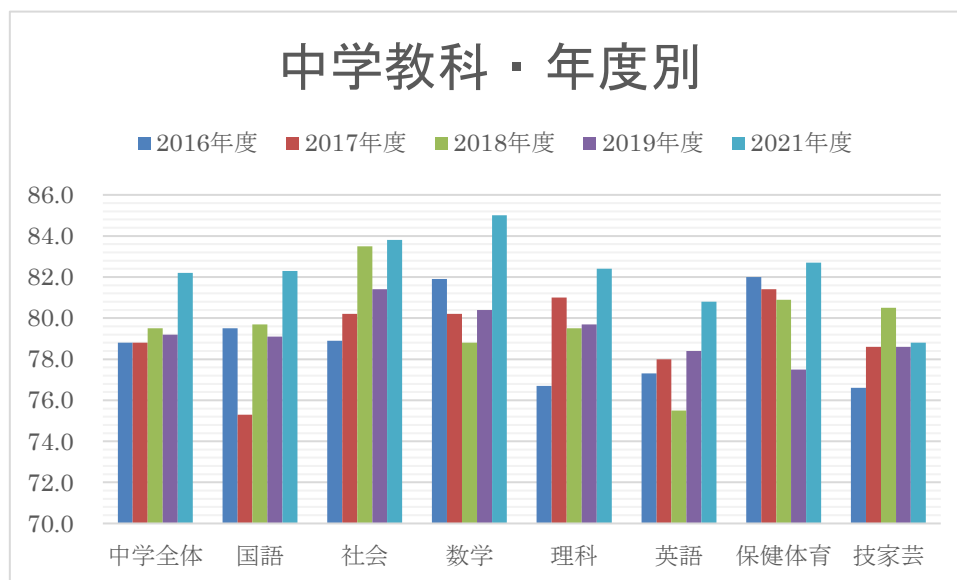
4、アンケート実施後の対応

- 今年度は、8月27日(金)に授業評価検討会を実施した。
- 講師より全体概評、評価点、課題、改善方法などが紹介され、その後質疑応答を実施して内容を深めた。
- この後、教科ごと、次いで担当学年ごとと会合をいた。
- 教科の会合においては、各自の結果を報告しあい、そのなかで教科共通の課題や長所などを確認し、今後の授業の改善内容・方法などを討議した。必要によっては9月以降の教科会でも継続審議を行った。
- 担当学年ごとの会合では、学年や各クラスの評価点・課題を基に、今後の授業改善などを検討した。

- これらの討議を参考にして、自分の課題克服を中心に10月上旬までに改善シートを作成した。その後、課題解決のために、授業見学やその後の教科会での話し合いなども含めて、各自・各教科で改善が重ねられた。

5、教科別の総合評価

〈中学校〉

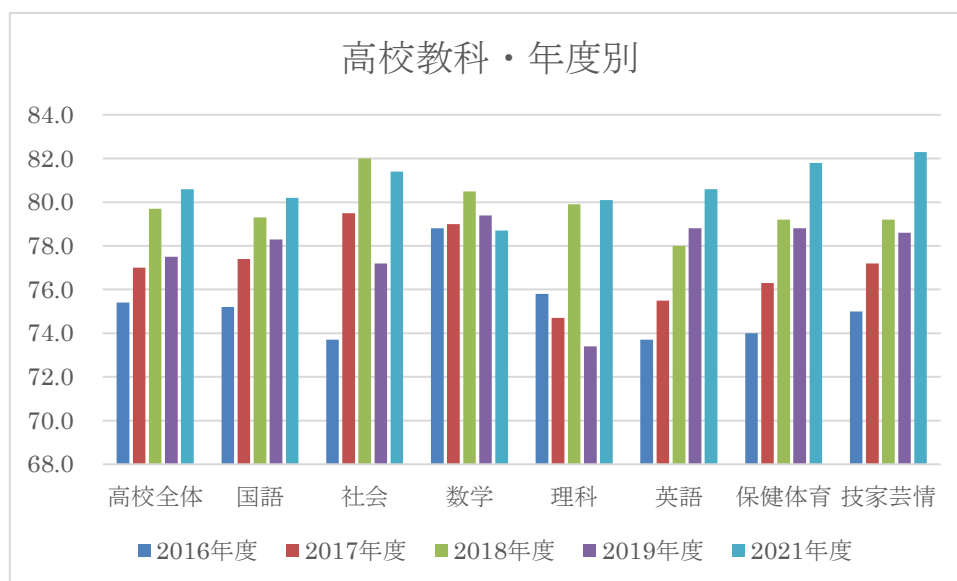


中学	全体	国語	社会	数学	理科	英語	保健体育	技家芸
2016年度	78.8	79.5	78.9	81.9	76.7	77.3	82.0	76.6
2017年度	78.8	75.3	80.2	80.2	81.0	78.0	81.4	78.6
2018年度	79.5	79.7	83.5	78.8	79.5	75.5	80.9	80.5
2019年度	79.2	79.1	81.4	80.4	79.7	78.4	77.5	78.6
2021年度	82.2	82.3	83.8	85.0	82.4	80.8	82.7	78.8

- 前述のように、2019年度から質問項目の一部が変更されたため、2018年度以前は参考数値となってなるが、今年度の評価は過去5回と比べて、高い評価を受けた教科が多い。その理由として、以下の5点があげられる。
 - ① 従来の授業評価を受けて、各教科・教員において改善がはかられている。課題を克服して恒常的に授業改善を行う土壌が次第に育成され、それが結実に向かっている。
 - ② 昨年度以降のオンライン授業を経験したことにより、教員がオンライン授業・対面授業それぞれの特性を理解し、その特性に合致した授業を研究して実践できている。
 - ③ 生徒側もオンライン授業の経験を通して、対面授業の重要性・効果を認識し、従来以上に授業を大切にするようになった。

- ④ ワイド（短焦点プロジェクター付ホワイトボード）やスクールタクトなどの ICT 環境が整い、教員もこれらを有効に使えるように研究を重ね、生徒の理解力や思考力・考察力の向上を促す授業を展開している。
- ⑤ 経年の各教科の研究により、講義形式の授業を脱却し、各自の取組、グループ活動などを主とした授業への転換をはかり、それが整備されてきている。これにより生徒が、主体的に学びに参加している意識を高めて、授業内容の理解にもつながっている。

〈高等学校〉



高校	全体	国語	社会	数学	理科	英語	保健体育	技家芸情
2016年度	75.4	75.2	73.7	78.8	75.8	73.7	74.0	75.0
2017年度	77.0	77.4	79.5	79.0	74.7	75.5	76.3	77.2
2018年度	79.7	79.3	82.0	80.5	79.9	78.0	79.2	79.2
2019年度	77.5	78.3	77.2	79.4	73.4	78.8	78.8	78.6
2021年度	80.6	80.2	81.4	78.7	80.1	80.6	81.8	82.3

- 中学校同様に、一昨年度と比較して評価が向上している教科が多い。
- 評価向上の理由は中学校と同様であるが、高校の場合には中学校とは相違する状況もある。
- 全員がパソコン（中1・2はChromebook）を所有している中学校とは違い、高校の場合には、高入生にもChromebookを購入してもらい全員デバイスを持っている高1を除き、高2・3の場合には、スマートホンなどの各自のデバイスを使用する形でしか、生徒のICT機器を活用した授業ができないため、制約がある。またスクールタクトも現在高校1年までしか使用しておらず、以後も年次進行で学年が拡大していくため、高校2・3年は卒業までスクールタクトが使えない状態であるため、この点でも制約があるのが高校の実情である。

- しかしながら、ワイドも全学年に導入され、高校においても有効に使った授業が検討され、実践されており、今後も高校における ITC 機器を活用した授業は、より充実していくものと思われる。

6、質問項目ごとの評価

例年通り最初の7項目に関して、中学校・高等学校別に、学年別で示して考察をする。

〈中学校=2021年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
中学全体	89.4	85.0	82.6	78.8	82.4	81.7	81.7
中学1年	92.4	86.3	84.8	79.2	84.2	82.9	84.0
中学2年	87.2	83.8	80.8	77.3	80.8	80.6	80.3
中学3年	87.9	84.5	81.6	79.7	81.8	81.2	80.4

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
中学全体	83.0	81.5	79.3	78.4	82.5	77.5	78.7
中学1年	86.2	83.7	81.2	77.6	84.9	79.0	81.4
中学2年	77.7	77.3	74.9	77.2	78.2	74.4	74.5
中学3年	83.7	82.5	81.1	80.7	83.5	78.4	79.1

〈参考：中学校=2019年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
中学全体	84.8	81.1	79.5	77.2	79.0	78.2	77.2
中学1年	90.1	85.6	84.2	82.8	83.5	83.1	80.9
中学2年	82.8	78.9	76.8	76.1	76.3	75.0	74.7
中学3年	82.0	79.2	77.9	73.5	77.4	76.6	76.0

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
中学全体	79.5	79.9	77.8	76.9	79.9	75.0	75.7
中学1年	84.4	84.4	81.0	78.7	83.4	77.6	78.6
中学2年	76.9	77.1	75.5	76.7	78.3	72.9	73.6
中学3年	74.0	75.5	74.9	74.3	75.8	72.8	73.0

- 例年同様、中学1年はポイントが高く、学年が上がると評価が厳しくなる傾向にあるが、今年度は中学2年の評価が低い傾向がみられる。例年中学3年も連動して評価が低い年が多いが、本年度は盛り返している。先に指摘した対面授業の有効性の理解などの他に、連絡進学による高校を意識したことにより学習意識が向上したことも考えられる。

- 実技系は例年教壇系よりも評価が低く、今年度も同様の傾向はみとれるが、一昨年度に比べると大きく改善されている。これも各教科・科目での授業改善の成果と評価できる。あわせて、生徒もオンライン授業を体験したことで、実技系の授業の重要性を認識したことも要因の一つと推測できる。

〈高等学校＝2021年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
高校全体	84.3	81.9	79.1	75.3	79.5	80.5	76.8
高校1年	81.9	78.3	75.3	71.8	76.2	77.5	73.9
高校2年	86.2	83.9	81.3	77.9	81.7	82.5	78.9
高校3年	85.2	84.2	81.6	76.9	81.4	82.3	78.2

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
高校全体	85.3	83.8	80.3	76.9	80.3	77.0	77.8
高校1年	84.9	83.2	80.6	77.7	80.2	77.0	77.9
高校2年	85.9	84.6	79.9	75.9	80.3	77.0	77.8

〈参考：高等学校＝2019年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
高校全体	79.9	78.2	75.7	72.6	75.9	76.3	73.2
高校1年	80.8	78.3	76.3	73.3	75.3	75.2	73.9
高校2年	78.5	76.5	73.9	69.3	74.3	74.3	71.4
高校3年	80.3	80.3	77.3	75.6	78.6	80.2	74.5

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
高校全体	81.5	80.7	78.7	74.7	77.9	75.9	75.5
高校1年	80.9	80.2	79.5	76.7	78.7	77.1	76.2
高校2年	82.3	81.5	77.5	71.7	76.9	74.1	74.5

- 高校は中学に比べてポイントは低めであるが、中学同様前回のアンケートに比べて改善がみられている。
- 高校の場合には、前述のようにデバイスの使用が限られることも、授業の幅を狭くしている一因といえる。
- それに加えて、とくに高校2・3年になると、入試を意識した講義系・演習系の授業が多いため、中学に比べてグループワークや発表などの機会が限られてくるため、対話の効果などは低めになりやすい。
- 授業内容も高度になるため、中学に比べて理解が難しく、それが学習効果に対する評価にもつながっている。

以上